県民ひろば

2021年7月15日
No.57
発　行／県民クラブ
連絡先／大分県議会
大分市大手町 ☎(097)536-1111㈹
http://www.oct-net.ne.jp/kenmin-club/

多様性を認め合える社会への出発点に

県民クラブ団長　玉田　輝義（豊後大野市）

昨年3月3日、大分県内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されてから1年4か月が経ちました。これまで3,491名に感染が確認され、63名が死亡、今も25名が入院治療を続けています（6月30日現在）。亡くなった方々のご冥福と治療中の方々の一日も早い回復をお祈りするとともに、医療関係者はじめ最前線で対応する多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

さて、連日発表される新規感染者数は、第4波のピークが過ぎ、感染状況の評価は6月28日にステージⅠとなりました。ワクチン接種も県や市町村などにおいて急ピッチで進められています。しかし、感染力が強い変異株ウイルスの出現や7月に東京オリンピック・パラリンピックで世界中から多くの人々が集まることを考えると、感染拡大に対してこれからも全く予断を許さない状態にあると思います。

新型コロナ関連予算は、4月入ってから3か月の間に、3回の専決と1回の臨時議会が行われ、感染拡大防止、ワクチン接種、生活支援、経済対策等に150億2,662万3千円が追加され緊急に執行されています。加えて今議会でも、ワクチン接種体制の強化、生活支援事業などに44億8千5百万円を追加しました。制度が広く県民に周知され、しっかりと行き渡り、一日も早くこの状況を乗り切っていかなければならないと考えます。

さて、私たちは、この直面している喫緊の課題を解決することに加えて、将来の地域社会のあり様を想像し、議論を進め、訪れる新しい時代への準備を進めていく必要もあると考えています。

歴史を紐解くと感染症の大流行は大きな社会変革のきっかけになっています。ヨーロッパで6世紀から8世紀にかけて感染拡大したペストは東ローマ帝国を衰退させ、14世紀から再び猛威を振るったペストでヨーロッパの中世は終わり国民国家が台頭し、近代へと移行したと言われます。

社会の変革は人々の日常の変化の積み重ねからも始まります。新しい生活様式のもとで私たちの生活もこの1年数か月で変わっています。マスク着用、手指消毒、密の回避などが普通になり、在宅勤務やリモート学習なども進んでいます。働き改革と相まって家族や地域で過ごす時間も増えました。また大都市からの転出超過傾向が表れて一極集中から多極分散への兆しもあります。

今はまだ新型コロナウイルス後の社会を正確に見通すことはできませんが、将来、今を振り返った時、社会が変わったその転換期を私たちは生きているのかもしれません。

今議会の開会日、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を設置しました。特別委員会では、新型コロナウイルス感染拡大防止、新しい生活様式への対応、経済活動の活性化促進などについて議論し要望や提言をまとめます。私たち県民クラブ挙げて積極的に議論に参加し、その内容を県民皆さんと共有していきたいと考えます。そのうえで、私たちの政治理念でもある、年齢や性別、居住地に関係なく一人ひとりの生活や仕事の現場に光が当たる社会、多様性を認め合える社会の実現に向けて進んでいきたいと思います。